

本資料のうち枠囲みの内容は、
他社の機密事項を含む可能性がある
ため公開できません。

柏崎刈羽原子力発電所第6号機 説明資料	
資料番号	KK6 添-2-007 (比較表) 改 1
提出年月日	2023年12月4日

先行審査プラントの記載との比較表 (VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針)


東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所第6号機

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

島根原子力発電所 第2号機 設工認申請書 基本設計方針（変更後）	柏崎刈羽原子力発電所第7号機 設工認申請書 基本設計方針（変更後）	柏崎刈羽原子力発電所第6号機 設工認申請書 基本設計方針（変更後）	備考												
<table border="1" data-bbox="617 630 2487 968"> <thead> <tr> <th data-bbox="629 636 825 684">相違 No</th> <th data-bbox="825 636 2475 684">相違理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="629 684 825 732">①</td> <td data-bbox="825 684 2475 732">柏崎刈羽7号機と図書番号が異なるため。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="629 732 825 781">②</td> <td data-bbox="825 732 2475 781">柏崎刈羽7号機で申請済みの内容は呼び込みとするため。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="629 781 825 829">③</td> <td data-bbox="825 781 2475 829">記載の適正化。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="629 829 825 915">④</td> <td data-bbox="825 829 2475 915">柏崎刈羽6号機では新たに作成する鉛直方向モデルを「原子炉本体の基礎」と「炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物」それぞれで作成しているため。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="629 915 825 963">⑤</td> <td data-bbox="825 915 2475 963">燃料移送系配管ダクトは現在設計中のため。</td> </tr> </tbody> </table>				相違 No	相違理由	①	柏崎刈羽7号機と図書番号が異なるため。	②	柏崎刈羽7号機で申請済みの内容は呼び込みとするため。	③	記載の適正化。	④	柏崎刈羽6号機では新たに作成する鉛直方向モデルを「原子炉本体の基礎」と「炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物」それぞれで作成しているため。	⑤	燃料移送系配管ダクトは現在設計中のため。
相違 No	相違理由														
①	柏崎刈羽7号機と図書番号が異なるため。														
②	柏崎刈羽7号機で申請済みの内容は呼び込みとするため。														
③	記載の適正化。														
④	柏崎刈羽6号機では新たに作成する鉛直方向モデルを「原子炉本体の基礎」と「炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物」それぞれで作成しているため。														
⑤	燃料移送系配管ダクトは現在設計中のため。														

先行審査プラントの記載との比較表（VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針）

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>V-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針</p> <p>目次</p> <p>1. 概要</p> <p>2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>2.1.1 設計用床応答曲線</p> <p>2.1.2 設計用最大応答加速度</p> <p>2.2 作成方法</p> <p>2.2.1 応答スペクトルの作成方法</p> <p>2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法</p> <p>2.2.3 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成位置</p> <p>2.2.4 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法</p> <p>3. 地震応答解析モデル</p> <p>4. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 S_d</p> <p>4.2 基準地震動 S_s</p> <p>4.3 余震荷重を算定するための地震動</p>	<p>VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針</p> <p>目次</p> <p>1. 概要</p> <p>2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>2.1.1 設計用床応答曲線</p> <p>2.1.2 設計用最大応答加速度</p> <p>2.2 作成方法</p> <p>2.2.1 応答スペクトルの作成方法</p> <p>2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法</p> <p>2.2.3 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成位置</p> <p>2.2.4 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法</p> <p>3. 地震応答解析モデル</p> <p>4. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 S_d</p> <p>4.2 基準地震動 S_s</p> <p>4.3 余震荷重を算定するための地震動</p>	<p>図書構成の差異（以下同様。）</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>1. 概要</p> <p>本資料は、<u>V-2-1-1</u>「耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、機器・配管系の動的解析に用いる設計用床応答曲線の作成方針及びその方針に基づき作成した設計用床応答曲線に関して説明するものである。</p> <p>また、機器・配管系の静的解析に用いる設計用最大応答加速度及び静的震度についても併せて説明する。</p> <p>2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>2.1.1 設計用床応答曲線</p> <p>(1) <u>V-2-1-6</u>「地震応答解析の基本方針」のうち「2. 地震応答解析の方針」に基づき策定した各原子炉施設の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求め。入力地震動は、<u>V-2-1-2</u>「基準地震動 S_s 及び弾性設計用地震動 S_d の策定概要」に基づくものとして、表2-1及び表2-2に示す。</p> <p>(2) (1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付1自由度系の応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。</p> <p>(3) (2)で求めた応答スペクトルに対し、各原子炉施設の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に±10%の拡幅を行う。本</p>	<p>1. 概要</p> <p>本資料は、<u>VI-2-1-1</u>「耐震設計の基本方針」のうち「4. 設計用地震力」に基づき、機器・配管系の動的解析に用いる設計用床応答曲線の作成方針及びその方針に基づき作成した設計用床応答曲線に関して説明するものである。</p> <p>また、機器・配管系の静的解析に用いる設計用最大応答加速度及び静的震度についても併せて説明する。</p> <p><u>柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の建物・構築物及び屋外重要土木構造物の設計用床応答曲線、設計用最大応答加速度及び静的震度を使用する場合は令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」によることとし、「4.1弾性設計用地震動 S_d」及び「4.2基準地震動 S_s」において、<u>柏崎刈羽原子力発電所第7号機の設計用床応答曲線、設計用最大応答加速度及び静的震度を使用する旨、記載する。</u></u></p> <p>2. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度作成に係る基本方針及び作成方法</p> <p>2.1 基本方針</p> <p>2.1.1 設計用床応答曲線</p> <p>(1) <u>VI-2-1-6</u>「地震応答解析の基本方針」のうち「2. 地震応答解析の方針」に基づき策定した各原子炉施設の解析モデルに対して、入力地震動を用いた時刻歴応答解析を行い、各質点位置における加速度応答時刻歴を求め。入力地震動は、<u>VI-2-1-2</u>「基準地震動 S_s 及び弾性設計用地震動 S_d の策定概要」に基づくものとして、表2-1及び表2-2に示す。</p> <p>(2) (1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴を入力として、減衰付1自由度系の応答スペクトルを必要な減衰定数の値に対して求める。</p> <p>(3) (2)で求めた応答スペクトルに対し、各原子炉施設の固有周期のシフトを考慮し、周期方向に±10%の拡幅を行う。本</p>	<p>図書構成の差異（柏崎刈羽原子力発電所6号機（以下、KK6という。）では柏崎刈羽原子力発電所7号機（以下、KK7という。）の設計及び工事の計画で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としている。）</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>資料においては、これを「床応答曲線」という。</p> <p>(4) (3)で求めた床応答曲線に対し、材料物性の不確かさ等や地震動及び地殻変動による基礎地盤の傾斜に対する影響を考慮して作成したものを、設計用床応答曲線Ⅰとする。</p> <p>(5)全ての固有周期における震度が設計用床応答曲線Ⅰ以上となるように作成したものを設計用床応答曲線Ⅱとする。</p> <p>(6)設計用床応答曲線Ⅰと設計用床応答曲線Ⅱを総称して、設計用床応答曲線という。</p> <p>2.1.2 設計用最大応答加速度</p> <p>(1)2.1.1(1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴の最大値（最大応答加速度）に対し、材料物性の不確かさ等や地震動及び地殻変動による基礎地盤の傾斜に対する影響を考慮して作成したものを、設計用最大応答加速度Ⅰとする。</p> <p>(2)設計用最大応答加速度Ⅰ以上となるように作成したものを設計用最大応答加速度Ⅱとする。</p>	<p>資料においては、これを「床応答曲線」という。</p> <p>(4) (3)で求めた床応答曲線に対し、材料物性の不確かさ等や地震動及び地殻変動による基礎地盤の傾斜に対する影響を考慮して作成したものを、設計用床応答曲線Ⅰとする。</p> <p>(5)全ての固有周期における震度が設計用床応答曲線Ⅰ以上となるように作成したものを設計用床応答曲線Ⅱとする。</p> <p>(6)設計用床応答曲線Ⅰと設計用床応答曲線Ⅱを総称して、設計用床応答曲線という。</p> <p>2.1.2設計用最大応答加速度</p> <p>(1)2.1.1(1)で求めた各質点の加速度応答時刻歴の最大値（最大応答加速度）に対し、材料物性の不確かさ等や地震動及び地殻変動による基礎地盤の傾斜に対する影響を考慮して作成したものを、設計用最大応答加速度Ⅰとする。</p> <p>(2)設計用最大応答加速度Ⅰ以上となるように作成したものを設計用最大応答加速度Ⅱとする。</p>	<p>設計方針の差異 【島根2】 設計用Ⅱの作成方針・方法の差異。</p> <p>設計方針の差異 【島根2】KK6では設計用Ⅰ、Ⅱ以外の設計用床応答曲線は適用しない。</p> <p>設計方針の差異 【島根2】 設計用Ⅱの作成方針・方法の差異。</p> <p>設計方針の差異 【島根2】KK6では設計用Ⅰ、Ⅱ以外</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考																																																																																																																																																																																								
	<p>(3) 設計用最大応答加速度Ⅰと設計用最大応答加速度Ⅱを総称して、設計用最大応答加速度という。</p> <p>表2-1 入力地震動（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="896 535 1472 1176"> <thead> <tr> <th colspan="3" rowspan="2">基準地震動 S s</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s²)</th> </tr> <tr> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>鉛直 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss-1</td> <td rowspan="2">F-B 断層による地震</td> <td>応答スペクトルに基づく地震動評価</td> <td colspan="2">1050</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>Ss-2</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>848</td> <td>1209</td> <td>466</td> </tr> <tr> <td>Ss-3</td> <td rowspan="3">長岡平野西縁断層帯による地震</td> <td>応答スペクトルに基づく地震動評価</td> <td colspan="2">600</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>Ss-4</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>428</td> <td>826</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td>Ss-5</td> <td>断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価</td> <td>426</td> <td>664</td> <td>346</td> </tr> <tr> <td>Ss-6</td> <td rowspan="2">長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>434</td> <td>864</td> <td>361</td> </tr> <tr> <td>Ss-7</td> <td>断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価</td> <td>389</td> <td>780</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>Ss-8</td> <td>震源を特定せず策定する地震動</td> <td>2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価</td> <td colspan="2">650</td> <td>330</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2-2 入力地震動（弾性設計用地震動 S d）</p> <table border="1" data-bbox="896 1297 1501 1667"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弾性設計用地震動 S d</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s²)</th> </tr> <tr> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>鉛直 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sd-1</td> <td colspan="2">525</td> <td>325</td> </tr> <tr> <td>Sd-2</td> <td>424</td> <td>604</td> <td>233</td> </tr> <tr> <td>Sd-3</td> <td colspan="2">300</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>Sd-4</td> <td>214</td> <td>413</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>Sd-5</td> <td>213</td> <td>332</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>Sd-6</td> <td>217</td> <td>432</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>Sd-7</td> <td>194</td> <td>390</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>Sd-8</td> <td colspan="2">325</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table>	基準地震動 S s			最大加速度 (cm/s ²)			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	Ss-1	F-B 断層による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	1050		650	Ss-2	断層モデルを用いた手法による地震動評価	848	1209	466	Ss-3	長岡平野西縁断層帯による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	600		400	Ss-4	断層モデルを用いた手法による地震動評価	428	826	332	Ss-5	断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	426	664	346	Ss-6	長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震	断層モデルを用いた手法による地震動評価	434	864	361	Ss-7	断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	389	780	349	Ss-8	震源を特定せず策定する地震動	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価	650		330	弾性設計用地震動 S d	最大加速度 (cm/s ²)			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	Sd-1	525		325	Sd-2	424	604	233	Sd-3	300		200	Sd-4	214	413	166	Sd-5	213	332	173	Sd-6	217	432	180	Sd-7	194	390	175	Sd-8	325		165	<p>(3) 設計用最大応答加速度Ⅰと設計用最大応答加速度Ⅱを総称して、設計用最大応答加速度という。</p> <p>表2-1 入力地震動（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="1638 535 2214 1176"> <thead> <tr> <th colspan="3" rowspan="2">基準地震動 S s</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s²)</th> </tr> <tr> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>鉛直 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Ss-1</td> <td rowspan="2">F-B 断層による地震</td> <td>応答スペクトルに基づく地震動評価</td> <td colspan="2">1050</td> <td>650</td> </tr> <tr> <td>Ss-2</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>848</td> <td>1209</td> <td>466</td> </tr> <tr> <td>Ss-3</td> <td rowspan="3">長岡平野西縁断層帯による地震</td> <td>応答スペクトルに基づく地震動評価</td> <td colspan="2">600</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td>Ss-4</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>428</td> <td>826</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td>Ss-5</td> <td>断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価</td> <td>426</td> <td>664</td> <td>346</td> </tr> <tr> <td>Ss-6</td> <td rowspan="2">長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震</td> <td>断層モデルを用いた手法による地震動評価</td> <td>434</td> <td>864</td> <td>361</td> </tr> <tr> <td>Ss-7</td> <td>断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価</td> <td>389</td> <td>780</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>Ss-8</td> <td>震源を特定せず策定する地震動</td> <td>2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価</td> <td colspan="2">650</td> <td>330</td> </tr> </tbody> </table> <p>表2-2 入力地震動（弾性設計用地震動 S d）</p> <table border="1" data-bbox="1638 1297 2243 1667"> <thead> <tr> <th rowspan="2">弾性設計用地震動 S d</th> <th colspan="3">最大加速度 (cm/s²)</th> </tr> <tr> <th>NS 方向</th> <th>EW 方向</th> <th>鉛直 方向</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sd-1</td> <td colspan="2">525</td> <td>325</td> </tr> <tr> <td>Sd-2</td> <td>424</td> <td>604</td> <td>233</td> </tr> <tr> <td>Sd-3</td> <td colspan="2">300</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>Sd-4</td> <td>214</td> <td>413</td> <td>166</td> </tr> <tr> <td>Sd-5</td> <td>213</td> <td>332</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>Sd-6</td> <td>217</td> <td>432</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>Sd-7</td> <td>194</td> <td>390</td> <td>175</td> </tr> <tr> <td>Sd-8</td> <td colspan="2">325</td> <td>165</td> </tr> </tbody> </table>	基準地震動 S s			最大加速度 (cm/s ²)			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	Ss-1	F-B 断層による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	1050		650	Ss-2	断層モデルを用いた手法による地震動評価	848	1209	466	Ss-3	長岡平野西縁断層帯による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	600		400	Ss-4	断層モデルを用いた手法による地震動評価	428	826	332	Ss-5	断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	426	664	346	Ss-6	長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震	断層モデルを用いた手法による地震動評価	434	864	361	Ss-7	断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	389	780	349	Ss-8	震源を特定せず策定する地震動	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価	650		330	弾性設計用地震動 S d	最大加速度 (cm/s ²)			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向	Sd-1	525		325	Sd-2	424	604	233	Sd-3	300		200	Sd-4	214	413	166	Sd-5	213	332	173	Sd-6	217	432	180	Sd-7	194	390	175	Sd-8	325		165	<p>の設計用最大応答加速度は適用しない。</p>
基準地震動 S s					最大加速度 (cm/s ²)																																																																																																																																																																																						
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向																																																																																																																																																																																						
Ss-1	F-B 断層による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	1050		650																																																																																																																																																																																						
Ss-2		断層モデルを用いた手法による地震動評価	848	1209	466																																																																																																																																																																																						
Ss-3	長岡平野西縁断層帯による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	600		400																																																																																																																																																																																						
Ss-4		断層モデルを用いた手法による地震動評価	428	826	332																																																																																																																																																																																						
Ss-5		断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	426	664	346																																																																																																																																																																																						
Ss-6	長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震	断層モデルを用いた手法による地震動評価	434	864	361																																																																																																																																																																																						
Ss-7		断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	389	780	349																																																																																																																																																																																						
Ss-8	震源を特定せず策定する地震動	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価	650		330																																																																																																																																																																																						
弾性設計用地震動 S d	最大加速度 (cm/s ²)																																																																																																																																																																																										
	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向																																																																																																																																																																																								
Sd-1	525		325																																																																																																																																																																																								
Sd-2	424	604	233																																																																																																																																																																																								
Sd-3	300		200																																																																																																																																																																																								
Sd-4	214	413	166																																																																																																																																																																																								
Sd-5	213	332	173																																																																																																																																																																																								
Sd-6	217	432	180																																																																																																																																																																																								
Sd-7	194	390	175																																																																																																																																																																																								
Sd-8	325		165																																																																																																																																																																																								
基準地震動 S s			最大加速度 (cm/s ²)																																																																																																																																																																																								
			NS 方向	EW 方向	鉛直 方向																																																																																																																																																																																						
Ss-1	F-B 断層による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	1050		650																																																																																																																																																																																						
Ss-2		断層モデルを用いた手法による地震動評価	848	1209	466																																																																																																																																																																																						
Ss-3	長岡平野西縁断層帯による地震	応答スペクトルに基づく地震動評価	600		400																																																																																																																																																																																						
Ss-4		断層モデルを用いた手法による地震動評価	428	826	332																																																																																																																																																																																						
Ss-5		断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	426	664	346																																																																																																																																																																																						
Ss-6	長岡平野西縁断層帯～山本山断層～十日町断層帯西部の連動を考慮した地震	断層モデルを用いた手法による地震動評価	434	864	361																																																																																																																																																																																						
Ss-7		断層傾斜角の不確かさを考慮した地震動評価	389	780	349																																																																																																																																																																																						
Ss-8	震源を特定せず策定する地震動	2004年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震動評価	650		330																																																																																																																																																																																						
弾性設計用地震動 S d	最大加速度 (cm/s ²)																																																																																																																																																																																										
	NS 方向	EW 方向	鉛直 方向																																																																																																																																																																																								
Sd-1	525		325																																																																																																																																																																																								
Sd-2	424	604	233																																																																																																																																																																																								
Sd-3	300		200																																																																																																																																																																																								
Sd-4	214	413	166																																																																																																																																																																																								
Sd-5	213	332	173																																																																																																																																																																																								
Sd-6	217	432	180																																																																																																																																																																																								
Sd-7	194	390	175																																																																																																																																																																																								
Sd-8	325		165																																																																																																																																																																																								

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>2.2 作成方法</p> <p>2.2.1 応答スペクトルの作成方法</p> <p>(1) 解析方法</p> <p>2.1.1(1)で述べた方針で時刻歴応答解析を行い、各モデルの各質点における加速度応答時刻歴を求める。この加速度応答時刻歴を入力波として応答スペクトルを作成する。すなわち、入力波の絶対加速度を\ddot{Y}_iとおけば、質点系の振動方程式は、</p> $\ddot{Z}_i + 2 \cdot h \cdot \omega \cdot \dot{Z}_i + \omega^2 \cdot Z_i = -\ddot{Y}_i \dots\dots\dots (2.1)$ <p>ただし、</p> <p>ω : 質点系の固有円振動数 Z_i : i 質点上の質点の相対変位 h : 減衰定数</p> <p>地震の間の$\ddot{Y}_i + \ddot{Z}_i$の最大値をω及びhをパラメータとして求め、応答スペクトルを作成する。応答スペクトルの作成には、「VIANA」、「Seismic Analysis System (SAS)」及び「MakeFRS」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、別紙「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>(2) 減衰定数</p> <p>応答スペクトルは、<u>V</u>-2-1-6「地震応答解析の基本方針」の機器・配管系の減衰定数を用いて作成する。</p> <p>(3) 数値計算用諸元</p> <p>固有周期作成幅 0.05~1.0s 固有周期計算間隔 0.05~0.1s $\Delta \omega=4.0$(rad/s) 0.1~0.2s $\Delta \omega=1.5$(rad/s) 0.2~0.39s $\Delta \omega=1.0$(rad/s) 0.39~0.6s $\Delta \omega=0.3$(rad/s) 0.6~1.0s $\Delta \omega=0.5$(rad/s)</p>	<p>2.2作成方法</p> <p>2.2.1応答スペクトルの作成方法</p> <p>(1)解析方法</p> <p>2.1.1(1)で述べた方針で時刻歴応答解析を行い、各モデルの各質点における加速度応答時刻歴を求める。この加速度応答時刻歴を入力波として応答スペクトルを作成する。すなわち、入力波の絶対加速度を\ddot{Y}_iとおけば、質点系の振動方程式は、</p> $\ddot{Z}_i + 2 \cdot h \cdot \omega \cdot \dot{Z}_i + \omega^2 \cdot Z_i = -\ddot{Y}_i \dots\dots\dots (2.1)$ <p>ただし、</p> <p>ω : 質点系の固有円振動数 Z_i : i 質点上の質点の相対変位 h : 減衰定数</p> <p>地震の間の$\ddot{Y}_i + \ddot{Z}_i$の最大値をω及びhをパラメータとして求め、応答スペクトルを作成する。応答スペクトルの作成には、「VIANA」、「Seismic Analysis System (SAS)」及び「MakeFRS」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、別紙「計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。</p> <p>(2)減衰定数</p> <p>応答スペクトルは、<u>VI</u>-2-1-6「地震応答解析の基本方針」の機器・配管系の減衰定数を用いて作成する。</p> <p>(3)数値計算用諸元 【弁の動的機能維持評価用（格納容器内）を除く】</p> <p>固有周期作成幅 0.05~1.0s 固有周期計算間隔 0.05~0.1s $\Delta \omega=4.0$(rad/s) 0.1~0.2s $\Delta \omega=1.5$(rad/s) 0.2~0.39s $\Delta \omega=1.0$(rad/s) 0.39~0.6s $\Delta \omega=0.3$(rad/s) 0.6~1.0s $\Delta \omega=0.5$(rad/s)</p>	<p>記載の適正化</p> <p>設計方針の差異 【島根2】地震動、地盤等の特性に応じた適切な計算間隔を適用している。</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法</p> <p>(1) 設計用床応答曲線</p> <p>設計用床応答曲線Ⅰは、基準地震動S_s又は弾性設計用地震動S_dによる時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の多少のずれにより、応答に大幅な変化が生じないよう周期軸方向に±10%の拡幅を行うとともに基礎地盤の傾斜の影響を加味したものと、材料物性の不確かさ等を考慮して作成した応答スペクトルを包絡させたものである(図2-1)。</p> <p>設計用床応答曲線Ⅱは、設計用床応答曲線Ⅰの設定に先立って機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成したものであり、事前検討段階の地震応答解析モデルによる床応答曲線を係数倍すること等により作成し、設計用床応答曲線Ⅰを包絡することを確認したものを使用する(図2-2)。</p> <p>(2) 設計用最大応答加速度</p> <p>設計用最大応答加速度Ⅰは、基準地震動S_s又は弾性設計用地震動S_dによる時刻歴応答解析から得られる応答波の最</p>	<p>(4) 数値計算用諸元(弁の動的機能維持評価用(格納容器内))</p> <p>固有周期作成幅 0.02~1.0s</p> <p>固有周期計算間隔</p> <p>0.02~0.1s Δω=4.0(rad/s)</p> <p>0.1~0.2s Δω=1.5(rad/s)</p> <p>0.2~0.39s Δω=1.0(rad/s)</p> <p>0.39~0.6s Δω=0.3(rad/s)</p> <p>0.6~1.0s Δω=0.5(rad/s)</p> <p>2.2.2 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成方法</p> <p>(1) 設計用床応答曲線</p> <p>設計用床応答曲線Ⅰは、基準地震動S_s又は弾性設計用地震動S_dによる時刻歴応答解析から得られる応答波を用いて作成した応答スペクトルを固有周期の多少のずれにより、応答に大幅な変化が生じないよう周期軸方向に±10%の拡幅を行うとともに基礎地盤の傾斜の影響を加味したものと、材料物性の不確かさ等を考慮して作成した応答スペクトルを包絡させたものである(図2-1)。</p> <p>設計用床応答曲線Ⅱは、設計用床応答曲線Ⅰの設定に先立って機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成したものであり、事前検討段階の地震応答解析モデルによる床応答曲線を係数倍すること等により作成し、全ての固有周期における震度が設計用床応答曲線Ⅰを包絡することを建物・構築物等、標高、減衰毎に確認したものののみを使用する(図2-2)。</p> <p>(2) 設計用最大応答加速度</p> <p>設計用最大応答加速度Ⅰは、基準地震動S_s又は弾性設計用地震動S_dによる時刻歴応答解析から得られる応答波の最</p>	<p>記載の適正化</p> <p>記載の適正化</p> <p>設計方針の差異 【島根2】 設計用Ⅱの作成方針・方法の差異。</p>

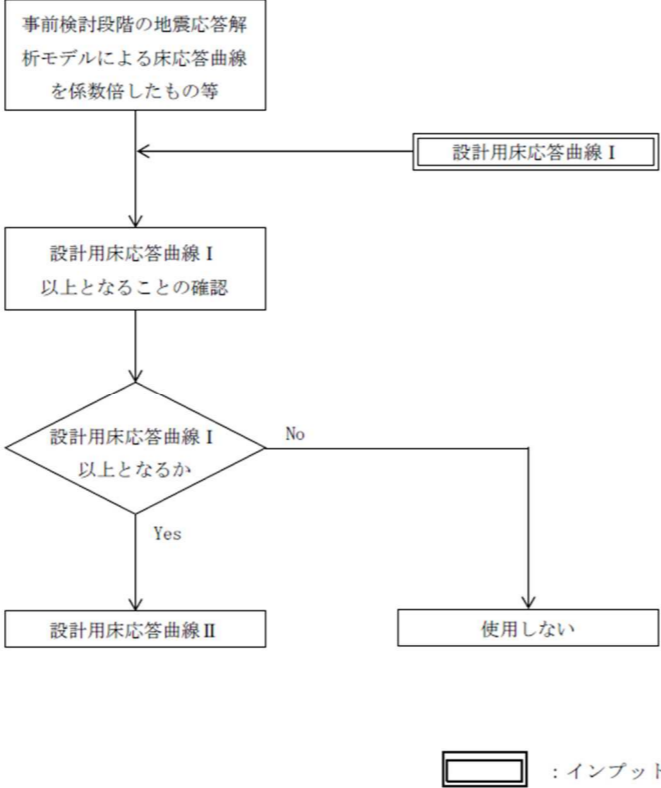
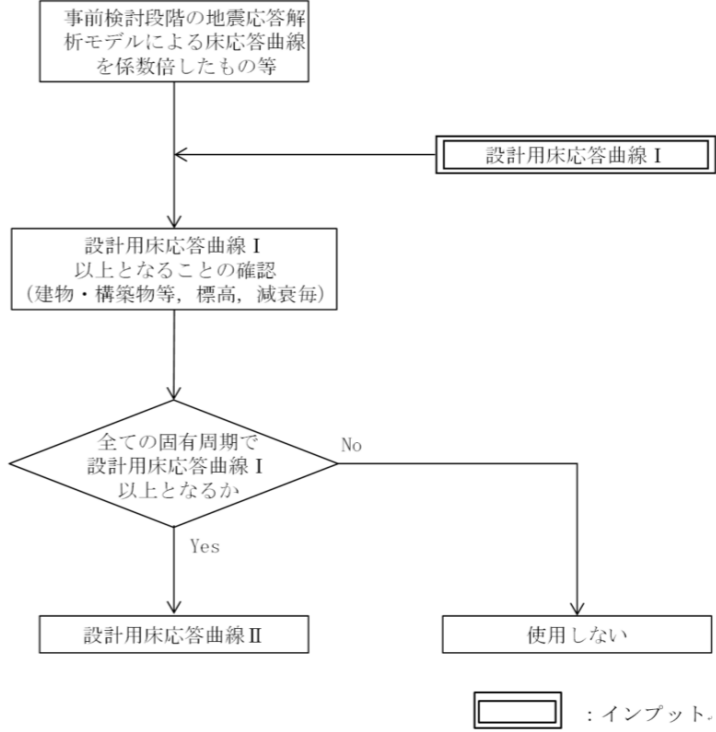
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>大値（最大応答加速度）に基礎地盤の傾斜の影響を加味したものと、材料物性の不確かさを考慮した時刻歴応答解析の応答波の最大値を包絡させたものである。</p> <p>設計用最大応答加速度Ⅱは、設計用最大応答加速度Ⅰの設定に先立って機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成したものであり、事前検討段階の地震応答解析モデルによる最大応答加速度を係数倍すること等により作成し、設計用最大応答加速度Ⅰを包絡することを確認したものを使用する。</p>  <p>図2-1 設計用床応答曲線Ⅰの作成方法</p>	<p>大値（最大応答加速度）に基礎地盤の傾斜の影響を加味したものと、材料物性の不確かさを考慮した時刻歴応答解析の応答波の最大値を包絡させたものである。</p> <p>設計用最大応答加速度Ⅱは、設計用最大応答加速度Ⅰの設定に先立って機器・配管系の耐震設計を行うことを目的として作成したものであり、事前検討段階の地震応答解析モデルによる最大応答加速度を係数倍すること等により作成し、設計用最大応答加速度Ⅰを包絡することを建物・構築物等、標高毎に確認したものののみを使用する。</p>  <p>図2-1 設計用床応答曲線Ⅰの作成方法</p>	<p>設計方針の差異 【島根2】 設計用Ⅱの作成方針・方法の差異。</p> <p>記載の適正化</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	 <p>図2-2 設計用床応答曲線Ⅱの作成方法</p> <p>2.2.3 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成位置 図3-1～図3-13の解析モデルについて設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度を作成する。</p> <p>2.2.4 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法 (1)概要 機器・配管系の動的地震力を求める場合は、それぞれの据付位置における設計用床応答曲線又は設計用最大応答加速度を使用して設計震度を定める。この場合、以下の運用方法に従う。</p> <p>(2)運用方法 a. 設計用床応答曲線 (a)設計用床応答曲線Ⅰ又は設計用床応答曲線Ⅱを用いる。</p>	 <p>図2-2 設計用床応答曲線Ⅱの作成方法</p> <p>2.2.3設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の作成位置 図3-1～図3-13の解析モデルについて設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度を作成する。</p> <p>2.2.4設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度の適用方法 (1)概要 機器・配管系の動的地震力を求める場合は、それぞれの据付位置における設計用床応答曲線又は設計用最大応答加速度を使用して設計震度を定める。この場合、以下の運用方法に従う。</p> <p>(2)運用方法 a. 設計用床応答曲線 (a)設計用床応答曲線Ⅰ又は設計用床応答曲線Ⅱを用いる。</p>	<p>記載の適正化</p>

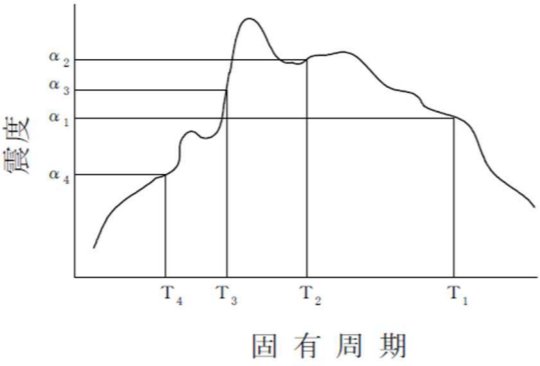
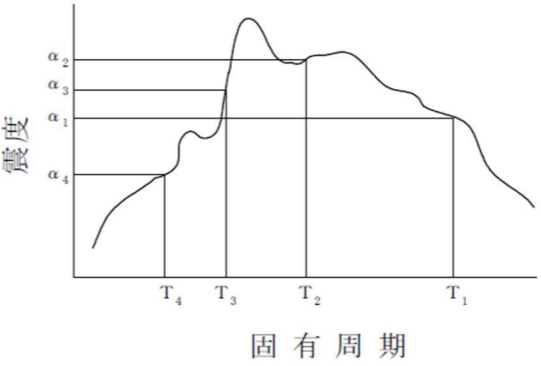
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>(b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用床応答曲線を使用する。</p> <p>(c) 建屋床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用床応答曲線を用い、建屋壁より支持される機器・配管系及び建屋中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用床応答曲線のうち安全側のものを用いるものとする。また、建屋上下階を貫通する配管系及び異なる建物、構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用床応答曲線のうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用床応答曲線の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p> <p>(d) 設計用床応答曲線を用いて動的解析を行う場合には以下に示す方法によりモード合成を行うものとする。</p>	<p>(b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用床応答曲線を使用する。</p> <p>(c) 建屋床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用床応答曲線を用い、建屋壁より支持される機器・配管系及び建屋中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用床応答曲線のうち安全側のものを用いるものとする。また、建屋上下階を貫通する配管系及び異なる建物、構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用床応答曲線のうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用床応答曲線の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p> <p>(d) 設計用床応答曲線を用いて動的解析を行う場合には図 2-3 に示す方法によりモード合成を行うものとする。なお、設計用床応答曲線を用いて弁の動的機能維持評価を行う場合には、一定の余裕を見込むため、格納容器内に設置された弁の評価には図 2-4②に示すとおり 50Hz 以下の範囲は計算し、50Hz を超える範囲は設計用最大応答加速度(1.0ZPA)とした応答スペクトルを、格納容器外に設置された弁の評価には図 2-2③に示すとおり 20Hz 以下の範囲は計算し、20Hz を超える範囲は設計用最大応答加速度(1.0ZPA)とした応答スペクトルを適用する。</p>	<p>記載の適正化（以下同様。）</p> <p>記載の適正化</p>

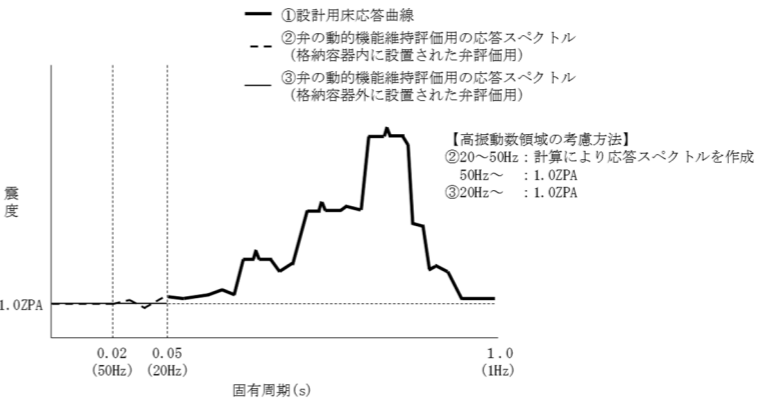
赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	 <p> T_s : S 次の固有周期 α_s : T_s に対応する震度 ϕ_{si} : S 次の i 質点の固有モード β_s : S 次の刺激係数 A_i : i 質点の設計震度 </p> $A_i = \sqrt{\sum_{S=1}^n (\beta_s \cdot \phi_{si} \cdot \alpha_s)^2}$	 <p> T_s : S 次の固有周期 α_s : T_s に対応する震度 ϕ_{si} : S 次の i 質点の固有モード β_s : S 次の刺激係数 A_i : i 質点の設計震度 </p> $A_i = \sqrt{\sum_{S=1}^n (\beta_s \cdot \phi_{si} \cdot \alpha_s)^2}$ <p>図2-3 動的解析におけるモード合成方法</p>	

赤字 : 柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
緑字 : 柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
黄色 : 前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>b. 設計用最大応答加速度</p> <p>(a) 設計用最大応答加速度Ⅰ又は設計用最大応答加速度Ⅱを用いる。なお、耐震計算書においては、無次元化した設計震度として記載されることもある。</p> <p>(b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用最大応答加速度を使用する。</p> <p>(c) 建屋床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用最大応答加速度を用い、建屋壁より支持される機器・配管系及び建屋中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用最大応答加速度のうち安全側のものを用いるものとする。また、建屋上下階を貫通する配管系及び異なる建物・構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用最大応答加速度のうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用最大応答加速度の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p> <p>3. 地震応答解析モデル</p> <p>(1) 原子炉建屋</p> <p>原子炉建屋の地震応答解析モデルには V-2-2-1「原子炉建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-1(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-1(2)に示す。</p>	 <p>図2-4 弁の動的機能維持評価に用いる応答スペクトル</p> <p>b. 設計用最大応答加速度</p> <p>(a) 設計用最大応答加速度Ⅰ又は設計用最大応答加速度Ⅱを用いる。なお、耐震計算書においては、無次元化した設計震度として記載されることもある。</p> <p>(b) 振動方向に合わせ水平方向及び鉛直方向の各方向の設計用最大応答加速度を使用する。</p> <p>(c) 建屋床より自立する機器・配管系については、設置階の設計用最大応答加速度を用い、建屋壁より支持される機器・配管系及び建屋中間階に設置される機器・配管系については、上下階の設計用最大応答加速度のうち安全側のものを用いるものとする。また、建屋上下階を貫通する配管系及び異なる建物・構築物等を渡る配管系については、それぞれの据付位置の設計用最大応答加速度のうち安全側のものを用いるものとする。ただし、設計用最大応答加速度の運用において合理性が示される場合には、その方法を採用できるものとする。</p> <p>3. 地震応答解析モデル</p> <p>(1) 原子炉建屋</p> <p>原子炉建屋の地震応答解析モデルには VI-2-2-1「原子炉建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-1(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-1(2)に示す。</p>	<p>記載の適正化</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>(2)原子炉本体の基礎 原子炉本体の基礎の地震応答解析モデルにはV-2-2-4「原子炉本体の基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-2(1)及び図3-2(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-2(3)に示す。</p> <p>(3)炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物 炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物の地震応答解析モデルにはV-2-3-1「炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-3(1)及び図3-3(2)に示す。 <u>なお，鉛直方向の地震応答解析モデルについては原子炉本体基礎と同様であり，図3-2(3)に示す。</u></p> <p>(4)タービン建屋 タービン建屋の地震応答解析モデルにはV-2-2-5「タービン建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-4(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-4(2)に示す。</p> <p><u>(5)コントロール建屋</u> <u>コントロール建屋の地震応答解析モデルにはV-2-2-9「コントロール建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-5(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-5(2)に示す。</u></p> <p>(6)軽油タンク基礎 軽油タンク基礎の地震応答解析モデルにはV-2-2-17「軽油タンク基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS断面の地震応答解析モデルを図3-6(1)に、加速度応答算出位置を図3-6(2)に示し、EW断面の地震応答解析モデルを図3-6(3)に、加速度応答算出位置を図3-6(4)に示す。</p>	<p>(2)原子炉本体の基礎 原子炉本体の基礎の地震応答解析モデルにはVI-2-2-4「原子炉本体の基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-2(1)及び図3-2(2)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-2(3)に示す。</p> <p>(3)炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物 炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物の地震応答解析モデルにはVI-2-3-1「炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-3(1)及び図3-3(2)に、<u>鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-3(3)に示す。</u></p> <p>(4)タービン建屋 タービン建屋の地震応答解析モデルにはVI-2-2-5「タービン建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-4(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-4(2)に示す。</p> <p>(5)軽油タンク基礎 軽油タンク基礎の地震応答解析モデルにはVI-2-2-17「軽油タンク基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS断面の地震応答解析モデルを図3-5(1)に、加速度応答算出位置を図3-5(2)に示し、EW断面の地震応答解析モデルを図3-5(3)に、加速度応答算出位置を図3-5(4)に示す。</p>	<p>設計方針の差異（KK6では新たに作成する鉛直方向モデルを「原子炉本体の基礎」と「炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物」それぞれで作成している。）</p> <p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており，新規に申請する建物・構築物及び屋外重要土木構造物の後に掲載することとしている。）</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち，枠囲みの内容は，他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p><u>(7) 燃料移送系配管ダクト</u> <u>燃料移送系配管ダクトの地震応答解析モデルにはV-2-2-19「燃料移送系配管ダクトの地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。燃料移送系配管ダクト（原子炉建屋側）におけるNS断面の地震応答解析モデルを図3-7(1)に、加速度応答算出位置を図3-7(2)に示し、燃料移送系配管ダクト（軽油タンク側）におけるNS断面の地震応答解析モデルを図3-7(3)に、加速度応答算出位置を図3-7(4)に示す。また、EW断面の地震応答解析モデルを図3-7(5)に、加速度応答算出位置を図3-7(6)に示す。</u></p> <p><u>(8) 廃棄物処理建屋</u> <u>廃棄物処理建屋の地震応答解析モデルにはV-2-2-11「廃棄物処理建屋の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-8(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-8(2)に示す。</u></p> <p><u>(9) 緊急時対策所</u> <u>緊急時対策所の地震応答解析モデルにはV-2-2-15「緊急時対策所の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-9(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-9(2)に示す。</u></p> <p><u>(10) 格納容器圧力逃がし装置基礎</u> <u>格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答解析モデルにはV-2-2-13「格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-10(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-10(2)に示す。</u></p> <p><u>(11) 第一ガスタービン発電機基礎</u> <u>第一ガスタービン発電機基礎の地震応答解析モデルにはV-2-2-21「常設代替交流電源設備基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS断面の地震応答解析モデルを図3-11(1)に、加速度応答算出位置を図3-11(2)に示し、EW断面の地震応答解析モデルを図3-11(3)に、加速度</u></p>	<p><u>(6) 格納容器圧力逃がし装置基礎</u> <u>格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答解析モデルにはVI-2-2-13「格納容器圧力逃がし装置基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。水平方向の地震応答解析モデルを図3-6(1)に、鉛直方向の地震応答解析モデルを図3-6(2)に示す。</u></p>	<p>図書構成の差異（燃料移送系配管ダクトは大物搬入建屋の建替えによる影響を受けて設計中であり、追而説明する。）</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p><u>応答算出位置を図3-11(4)に示す。</u></p> <p><u>(12) 第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</u> <u>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎の地震応答解析モデルにはV-2-2-21「常設代替交流電源設備基礎の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS断面の地震応答解析モデルを図3-12(1)に、加速度応答算出位置を図3-12(2)に示す。なお、EW断面の地震応答解析モデルについては第一ガスタービン発電機基礎と同様であり、図3-11(3)及び図3-11(4)に示す。</u></p> <p><u>(13) 軽油タンク基礎（6号機設備）</u> <u>軽油タンク基礎（6号機設備）の地震応答解析モデルにはV-2-2-23「軽油タンク基礎（6号機設備）の地震応答計算書」に記載する解析モデルを用いる。NS断面の地震応答解析モデルを図3-13(1)に、加速度応答算出位置を図3-13(2)に示し、EW断面の地震応答解析モデルを図3-13(3)に、加速度応答算出位置を図3-13(4)に示す。</u></p>	<p><u>(7) コントロール建屋</u> <u>コントロール建屋については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の建物・構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p> <p><u>(8) 廃棄物処理建屋</u> <u>廃棄物処理建屋については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の建物・構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p> <p><u>(9) 緊急時対策所</u></p>	<p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており、新規申請・認可済みの順で建物・構築物及び屋外重要土木構造物を掲載することとしている。）</p>

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
		<p><u>緊急時対策所については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の建物・構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「设计用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p> <p><u>(10)第一ガスタービン発電機基礎</u> <u>第一ガスタービン発電機基礎については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の屋外重要土木構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「设计用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p> <p><u>(11)第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</u> <u>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機と共通の屋外重要土木構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「设计用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p> <p><u>(12)軽油タンク基礎（7号機設備）</u> <u>軽油タンク基礎（7号機設備）については、柏崎刈羽原子力発電所第7号機で申請された屋外重要土木構築物であることから、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽原子力発電所第7号機的设计及び工事の計画のV-2-1-7「设计用床応答曲線の作成方針」のうち、「3.地震応答解析モデル」による。</u></p>	

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考
	<p>4. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度</p> <p>本章では、施設ごとの各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線を示す。なお、静的震度は V-2-1-1「耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に従って算出した値以上となるように作成したものである。</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 S d</p> <p>設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線 (S d) を示す。また、最大応答加速度及び床応答曲線 (S d) についても示す。</p> <p>(1) 設計用最大応答加速度一覧表</p> <p>建物・構築物等の各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに最大応答加速度を表 4. 1-1～表 4. 1-7 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4. 1 に示す。</p>	<p>4. 設計用床応答曲線及び設計用最大応答加速度</p> <p>本章では、施設ごとの各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線を示す。なお、静的震度は VI-2-1-1「耐震設計の基本方針」の「4. 設計用地震力」に従って算出した値以上となるように作成したものである。</p> <p>4.1 弾性設計用地震動 S d</p> <p>設計用最大応答加速度及び静的震度並びに設計用床応答曲線 (S d) を示す。また、最大応答加速度及び床応答曲線 (S d) についても示す。</p> <p>(1) 設計用最大応答加速度一覧表</p> <p>建物・構築物等の各床面の設計用最大応答加速度及び静的震度並びに最大応答加速度を表 4. 1-1～表 4. 1-6 に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表 4. 1 に示す。</p>	

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考																																																												
	<p>表4.1 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動S d）</p> <table border="1" data-bbox="899 342 1611 657"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用最大応答加速度及び静的震度</th> <th>最大応答加速度*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉建屋</td> <td>表4.1-1(1)</td> <td>表4.1-1(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉本体の基礎</td> <td>表4.1-2(1)</td> <td>表4.1-2(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td> <td>表4.1-3(1)</td> <td>表4.1-3(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>タービン建屋</td> <td>表4.1-4(1)</td> <td>表4.1-4(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>コントロール建屋</td> <td>表4.1-5(1)</td> <td>表4.1-5(2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>軽油タンク基礎</td> <td>表4.1-6(1)</td> <td>表4.1-6(2)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>燃料移送系配管ダクト</td> <td>表4.1-7(1)</td> <td>表4.1-7(2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：地震応答解析モデルの設定に用いる物性値，定数等を標準的なものとする解析ケース（基本ケース）での地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴の最大値</p> <p>(2)設計用床応答曲線の図番 各床面の減衰定数に応じた設計用床応答曲線及び床応答曲線の図番を表4.2-1～表4.2-7に示す。また，建物・構築物等の表番号との関連を表4.2に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度及び静的震度	最大応答加速度*	1	原子炉建屋	表4.1-1(1)	表4.1-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表4.1-2(1)	表4.1-2(2)	3	炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.1-3(1)	表4.1-3(2)	4	タービン建屋	表4.1-4(1)	表4.1-4(2)	5	コントロール建屋	表4.1-5(1)	表4.1-5(2)	6	軽油タンク基礎	表4.1-6(1)	表4.1-6(2)	7	燃料移送系配管ダクト	表4.1-7(1)	表4.1-7(2)	<p>表4.1 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動S d）</p> <table border="1" data-bbox="1641 359 2353 632"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用最大応答加速度及び静的震度</th> <th>最大応答加速度*1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉建屋</td> <td>表4.1-1(1)</td> <td>表4.1-1(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉本体の基礎</td> <td>表4.1-2(1)</td> <td>表4.1-2(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td> <td>表4.1-3(1)</td> <td>表4.1-3(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>タービン建屋</td> <td>表4.1-4(1)</td> <td>表4.1-4(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>軽油タンク基礎</td> <td>表4.1-5(1)</td> <td>表4.1-5(2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コントロール建屋</td> <td>—*2</td> <td>—*2</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*1：地震応答解析モデルの設定に用いる物性値，定数等を標準的なものとする解析ケース（基本ケース）での地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴の最大値</p> <p>*2：コントロール建屋の設計用最大応答加速度及び静的震度，最大応答加速度については，令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち，「4.1弾性設計用地震動S d」による。</p> <p>(2)設計用床応答曲線の図番 各床面の減衰定数に応じた設計用床応答曲線及び床応答曲線の図番を表4.2-1～表4.2-6に示す。また，建物・構築物等の表番号との関連を表4.2に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度及び静的震度	最大応答加速度*1	1	原子炉建屋	表4.1-1(1)	表4.1-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表4.1-2(1)	表4.1-2(2)	3	炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.1-3(1)	表4.1-3(2)	4	タービン建屋	表4.1-4(1)	表4.1-4(2)	5	軽油タンク基礎	表4.1-5(1)	表4.1-5(2)	6	コントロール建屋	—*2	—*2	<p>図書構成の差異（燃料移送系配管ダクトは大物搬入建屋の建替えによる影響を受けて設計中であり，追而説明する。）</p> <p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており，新規申請・認可済みの順で建物・構築物及び屋外重要土木構造物を掲載することとしている。）</p>
No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度及び静的震度	最大応答加速度*																																																												
1	原子炉建屋	表4.1-1(1)	表4.1-1(2)																																																												
2	原子炉本体の基礎	表4.1-2(1)	表4.1-2(2)																																																												
3	炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.1-3(1)	表4.1-3(2)																																																												
4	タービン建屋	表4.1-4(1)	表4.1-4(2)																																																												
5	コントロール建屋	表4.1-5(1)	表4.1-5(2)																																																												
6	軽油タンク基礎	表4.1-6(1)	表4.1-6(2)																																																												
7	燃料移送系配管ダクト	表4.1-7(1)	表4.1-7(2)																																																												
No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度及び静的震度	最大応答加速度*1																																																												
1	原子炉建屋	表4.1-1(1)	表4.1-1(2)																																																												
2	原子炉本体の基礎	表4.1-2(1)	表4.1-2(2)																																																												
3	炉心，原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.1-3(1)	表4.1-3(2)																																																												
4	タービン建屋	表4.1-4(1)	表4.1-4(2)																																																												
5	軽油タンク基礎	表4.1-5(1)	表4.1-5(2)																																																												
6	コントロール建屋	—*2	—*2																																																												

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち，枠囲みの内容は，他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考																																																												
	<p>表4.2 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動S_d）</p> <table border="1" data-bbox="896 352 1614 638"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用床応答曲線</th> <th>床応答曲線*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉建屋</td> <td>表4.2-1(1)</td> <td>表4.2-1(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉本体の基礎</td> <td>表4.2-2(1)</td> <td>表4.2-2(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td> <td>表4.2-3(1)</td> <td>表4.2-3(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>タービン建屋</td> <td>表4.2-4(1)</td> <td>表4.2-4(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>コントロール建屋</td> <td>表4.2-5(1)</td> <td>表4.2-5(2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>軽油タンク基礎</td> <td>表4.2-6(1)</td> <td>表4.2-6(2)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>燃料移送系配管ダクト</td> <td>表4.2-7(1)</td> <td>表4.2-7(2)</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*：基本ケースでの地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴を入力として作成した応答スペクトルに対し、周期軸方向に±10%の拡幅を行ったもの</p> <p>4.2 基準地震動S_s</p> <p>設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線（S_s）を示す。また、最大応答加速度及び床応答曲線（S_s）についても示す。</p> <p>(1) 設計用最大応答加速度一覧表</p> <p>建物・構築物等の各床面の設計用最大応答加速度及び最大応答加速度を表4.3-1～表4.3-13に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表4.3に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*	1	原子炉建屋	表4.2-1(1)	表4.2-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表4.2-2(1)	表4.2-2(2)	3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.2-3(1)	表4.2-3(2)	4	タービン建屋	表4.2-4(1)	表4.2-4(2)	5	コントロール建屋	表4.2-5(1)	表4.2-5(2)	6	軽油タンク基礎	表4.2-6(1)	表4.2-6(2)	7	燃料移送系配管ダクト	表4.2-7(1)	表4.2-7(2)	<p>表4.2 建物・構築物等と表番号との関連（弾性設計用地震動S_d）</p> <table border="1" data-bbox="1638 352 2356 592"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用床応答曲線</th> <th>床応答曲線*¹</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>原子炉建屋</td> <td>表4.2-1(1)</td> <td>表4.2-1(2)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>原子炉本体の基礎</td> <td>表4.2-2(1)</td> <td>表4.2-2(2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td> <td>表4.2-3(1)</td> <td>表4.2-3(2)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>タービン建屋</td> <td>表4.2-4(1)</td> <td>表4.2-4(2)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>軽油タンク基礎</td> <td>表4.2-5(1)</td> <td>表4.2-5(2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>コントロール建屋</td> <td>—*²</td> <td>—*²</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記*¹：基本ケースでの地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴を入力として作成した応答スペクトルに対し、周期軸方向に±10%の拡幅を行ったもの</p> <p>*²：コントロール建屋の設計用床応答曲線、床応答曲線については、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち、「4.1弾性設計用地震動S_d」による。</p> <p>4.2 基準地震動S_s</p> <p>設計用最大応答加速度及び設計用床応答曲線（S_s）を示す。また、最大応答加速度及び床応答曲線（S_s）についても示す。</p> <p>(1) 設計用最大応答加速度一覧表</p> <p>建物・構築物等の各床面の設計用最大応答加速度及び最大応答加速度を表4.3-1～表4.3-7に示す。また、建物・構築物等と表番号との関連を表4.3に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線* ¹	1	原子炉建屋	表4.2-1(1)	表4.2-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表4.2-2(1)	表4.2-2(2)	3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.2-3(1)	表4.2-3(2)	4	タービン建屋	表4.2-4(1)	表4.2-4(2)	5	軽油タンク基礎	表4.2-5(1)	表4.2-5(2)	6	コントロール建屋	—* ²	—* ²	<p>図書構成の差異（燃料移送系配管ダクトは大物搬入建屋の建替えによる影響を受けて設計中であり、追而説明する。）</p> <p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており、新規申請・認可済みの順で建物・構築物及び屋外重要土木構造物を掲載することとしている。）</p>
No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*																																																												
1	原子炉建屋	表4.2-1(1)	表4.2-1(2)																																																												
2	原子炉本体の基礎	表4.2-2(1)	表4.2-2(2)																																																												
3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.2-3(1)	表4.2-3(2)																																																												
4	タービン建屋	表4.2-4(1)	表4.2-4(2)																																																												
5	コントロール建屋	表4.2-5(1)	表4.2-5(2)																																																												
6	軽油タンク基礎	表4.2-6(1)	表4.2-6(2)																																																												
7	燃料移送系配管ダクト	表4.2-7(1)	表4.2-7(2)																																																												
No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線* ¹																																																												
1	原子炉建屋	表4.2-1(1)	表4.2-1(2)																																																												
2	原子炉本体の基礎	表4.2-2(1)	表4.2-2(2)																																																												
3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表4.2-3(1)	表4.2-3(2)																																																												
4	タービン建屋	表4.2-4(1)	表4.2-4(2)																																																												
5	軽油タンク基礎	表4.2-5(1)	表4.2-5(2)																																																												
6	コントロール建屋	—* ²	—* ²																																																												

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

本資料のうち、枠囲みの内容は、他社の機密事項を含む可能性があるため公開できません。

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考																																																																																																												
	<p>表 4. 3 建物・構築物等と表番号との関連（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="896 357 1614 892"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用最大応答加速度</th> <th>最大応答加速度*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子炉建屋</td><td>表 4. 3-1(1)</td><td>表 4. 3-1(2)</td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉本体の基礎</td><td>表 4. 3-2(1)</td><td>表 4. 3-2(2)</td></tr> <tr><td>3</td><td>炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td><td>表 4. 3-3(1)</td><td>表 4. 3-3(2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋</td><td>表 4. 3-4(1)</td><td>表 4. 3-4(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>コントロール建屋</td><td>表 4. 3-5(1)</td><td>表 4. 3-5(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>軽油タンク基礎</td><td>表 4. 3-6(1)</td><td>表 4. 3-6(2)</td></tr> <tr><td>7</td><td>燃料移送系配管ダクト</td><td>表 4. 3-7(1)</td><td>表 4. 3-7(2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋</td><td>表 4. 3-8(1)</td><td>表 4. 3-8(2)</td></tr> <tr><td>9</td><td>緊急時対策所</td><td>表 4. 3-9(1)</td><td>表 4. 3-9(2)</td></tr> <tr><td>10</td><td>格納容器圧力逃がし装置基礎</td><td>表 4. 3-10(1)</td><td>表 4. 3-10(2)</td></tr> <tr><td>11</td><td>第一ガスタービン発電機基礎</td><td>表 4. 3-11(1)</td><td>表 4. 3-11(2)</td></tr> <tr><td>12</td><td>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</td><td>表 4. 3-12(1)</td><td>表 4. 3-12(2)</td></tr> <tr><td>13</td><td>軽油タンク基礎（6号機設備）</td><td>表 4. 3-13(1)</td><td>表 4. 3-13(2)</td></tr> </tbody> </table> <p>注記*：地震応答解析モデルの設定に用いる物性値，定数等を標準的なものとする解析ケース（基本ケース）での地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴の最大値</p> <p>(2)設計用床応答曲線の図番 各床面の減衰定数に応じた設計用床応答曲線及び床応答曲線の図番を表 4. 4-1～表 4. 4-12 に示す。また，建物・構築物等の表番号との関連を表 4. 4 に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度	最大応答加速度*	1	原子炉建屋	表 4. 3-1(1)	表 4. 3-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表 4. 3-2(1)	表 4. 3-2(2)	3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表 4. 3-3(1)	表 4. 3-3(2)	4	タービン建屋	表 4. 3-4(1)	表 4. 3-4(2)	5	コントロール建屋	表 4. 3-5(1)	表 4. 3-5(2)	6	軽油タンク基礎	表 4. 3-6(1)	表 4. 3-6(2)	7	燃料移送系配管ダクト	表 4. 3-7(1)	表 4. 3-7(2)	8	廃棄物処理建屋	表 4. 3-8(1)	表 4. 3-8(2)	9	緊急時対策所	表 4. 3-9(1)	表 4. 3-9(2)	10	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 3-10(1)	表 4. 3-10(2)	11	第一ガスタービン発電機基礎	表 4. 3-11(1)	表 4. 3-11(2)	12	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	表 4. 3-12(1)	表 4. 3-12(2)	13	軽油タンク基礎（6号機設備）	表 4. 3-13(1)	表 4. 3-13(2)	<p>表 4. 3 建物・構築物等と表番号との関連（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="1638 346 2356 829"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用最大応答加速度</th> <th>最大応答加速度*1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子炉建屋</td><td>表 4. 3-1(1)</td><td>表 4. 3-1(2)</td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉本体の基礎</td><td>表 4. 3-2(1)</td><td>表 4. 3-2(2)</td></tr> <tr><td>3</td><td>炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物</td><td>表 4. 3-3(1)</td><td>表 4. 3-3(2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋</td><td>表 4. 3-4(1)</td><td>表 4. 3-4(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>軽油タンク基礎</td><td>表 4. 3-5(1)</td><td>表 4. 3-5(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>格納容器圧力逃がし装置基礎</td><td>表 4. 3-6(1)</td><td>表 4. 3-6(2)</td></tr> <tr><td>7</td><td>コントロール建屋</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>9</td><td>緊急時対策所</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>10</td><td>第一ガスタービン発電機基礎</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>11</td><td>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>12</td><td>軽油タンク基礎（7号機設備）</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> </tbody> </table> <p>注記*1：地震応答解析モデルの設定に用いる物性値，定数等を標準的なものとする解析ケース（基本ケース）での地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴の最大値</p> <p>*2：コントロール建屋，廃棄物処理建屋，緊急時対策所，第一ガスタービン発電機基礎，第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎，軽油タンク基礎（7号機設備）の設計用最大応答加速度，最大応答加速度については，令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち，「4.2 基準地震動 S s」による。</p> <p>(2)設計用床応答曲線の図番 各床面の減衰定数に応じた設計用床応答曲線及び床応答曲線の図番を表 4. 4-1～表 4. 4-7 に示す。また，建物・構築物等の表番号との関連を表 4. 4 に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度	最大応答加速度*1	1	原子炉建屋	表 4. 3-1(1)	表 4. 3-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表 4. 3-2(1)	表 4. 3-2(2)	3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表 4. 3-3(1)	表 4. 3-3(2)	4	タービン建屋	表 4. 3-4(1)	表 4. 3-4(2)	5	軽油タンク基礎	表 4. 3-5(1)	表 4. 3-5(2)	6	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 3-6(1)	表 4. 3-6(2)	7	コントロール建屋	—*2	—*2	8	廃棄物処理建屋	—*2	—*2	9	緊急時対策所	—*2	—*2	10	第一ガスタービン発電機基礎	—*2	—*2	11	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	—*2	—*2	12	軽油タンク基礎（7号機設備）	—*2	—*2	<p>備考</p> <p>図書構成の差異（燃料移送系配管ダクトは大物搬入建屋の建替えによる影響を受けて設計中であり，追而説明する。）</p> <p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構造物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており，新規申請・認可済みの順で建物・構築物及び屋外重要土木構造物を掲載することとしている。）</p>
No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度	最大応答加速度*																																																																																																												
1	原子炉建屋	表 4. 3-1(1)	表 4. 3-1(2)																																																																																																												
2	原子炉本体の基礎	表 4. 3-2(1)	表 4. 3-2(2)																																																																																																												
3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表 4. 3-3(1)	表 4. 3-3(2)																																																																																																												
4	タービン建屋	表 4. 3-4(1)	表 4. 3-4(2)																																																																																																												
5	コントロール建屋	表 4. 3-5(1)	表 4. 3-5(2)																																																																																																												
6	軽油タンク基礎	表 4. 3-6(1)	表 4. 3-6(2)																																																																																																												
7	燃料移送系配管ダクト	表 4. 3-7(1)	表 4. 3-7(2)																																																																																																												
8	廃棄物処理建屋	表 4. 3-8(1)	表 4. 3-8(2)																																																																																																												
9	緊急時対策所	表 4. 3-9(1)	表 4. 3-9(2)																																																																																																												
10	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 3-10(1)	表 4. 3-10(2)																																																																																																												
11	第一ガスタービン発電機基礎	表 4. 3-11(1)	表 4. 3-11(2)																																																																																																												
12	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	表 4. 3-12(1)	表 4. 3-12(2)																																																																																																												
13	軽油タンク基礎（6号機設備）	表 4. 3-13(1)	表 4. 3-13(2)																																																																																																												
No.	建物・構築物等	設計用最大応答加速度	最大応答加速度*1																																																																																																												
1	原子炉建屋	表 4. 3-1(1)	表 4. 3-1(2)																																																																																																												
2	原子炉本体の基礎	表 4. 3-2(1)	表 4. 3-2(2)																																																																																																												
3	炉心、原子炉圧力容器及び圧力容器内部構造物	表 4. 3-3(1)	表 4. 3-3(2)																																																																																																												
4	タービン建屋	表 4. 3-4(1)	表 4. 3-4(2)																																																																																																												
5	軽油タンク基礎	表 4. 3-5(1)	表 4. 3-5(2)																																																																																																												
6	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 3-6(1)	表 4. 3-6(2)																																																																																																												
7	コントロール建屋	—*2	—*2																																																																																																												
8	廃棄物処理建屋	—*2	—*2																																																																																																												
9	緊急時対策所	—*2	—*2																																																																																																												
10	第一ガスタービン発電機基礎	—*2	—*2																																																																																																												
11	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	—*2	—*2																																																																																																												
12	軽油タンク基礎（7号機設備）	—*2	—*2																																																																																																												

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点

島根原子力発電所2号機	柏崎刈羽原子力発電所第7号機	柏崎刈羽原子力発電所第6号機	備考																																																																																																				
	<p>表 4. 4 建物・構築物等と表番号との関連（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="899 348 1611 821"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用床応答曲線</th> <th>床応答曲線*</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子炉建屋</td><td>表 4. 4-1(1)</td><td>表 4. 4-1(2)</td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉本体の基礎</td><td>表 4. 4-2(1)</td><td>表 4. 4-2(2)</td></tr> <tr><td>3</td><td>炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物</td><td>表 4. 4-3(1)</td><td>表 4. 4-3(2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋</td><td>表 4. 4-4(1)</td><td>表 4. 4-4(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>コントロール建屋</td><td>表 4. 4-5(1)</td><td>表 4. 4-5(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>軽油タンク基礎</td><td>表 4. 4-6(1)</td><td>表 4. 4-6(2)</td></tr> <tr><td>7</td><td>燃料移送系配管ダクト</td><td>表 4. 4-7(1)</td><td>表 4. 4-7(2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋</td><td>表 4. 4-8(1)</td><td>表 4. 4-8(2)</td></tr> <tr><td>9</td><td>緊急時対策所</td><td>表 4. 4-9(1)</td><td>表 4. 4-9(2)</td></tr> <tr><td>10</td><td>格納容器圧力逃がし装置基礎</td><td>表 4. 4-10(1)</td><td>表 4. 4-10(2)</td></tr> <tr><td>11</td><td>第一ガスタービン発電機基礎</td><td>表 4. 4-11(1)</td><td>表 4. 4-11(2)</td></tr> <tr><td>12</td><td>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</td><td>表 4. 4-12(1)</td><td>表 4. 4-12(2)</td></tr> </tbody> </table> <p>注記*：基本ケースでの地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴を入力として作成した応答スペクトルに対し、周期軸方向に±10%の拡幅を行ったもの</p> <p>4.3 余震荷重を算定するための地震動 津波荷重と重畳させる余震荷重を算定するための地震動及び震度は、<u>V</u>-3「強度に関する説明書」のうち、<u>V</u>-3-別添3-1「津波への配慮が必要な施設の強度に関する説明書」に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*	1	原子炉建屋	表 4. 4-1(1)	表 4. 4-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表 4. 4-2(1)	表 4. 4-2(2)	3	炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物	表 4. 4-3(1)	表 4. 4-3(2)	4	タービン建屋	表 4. 4-4(1)	表 4. 4-4(2)	5	コントロール建屋	表 4. 4-5(1)	表 4. 4-5(2)	6	軽油タンク基礎	表 4. 4-6(1)	表 4. 4-6(2)	7	燃料移送系配管ダクト	表 4. 4-7(1)	表 4. 4-7(2)	8	廃棄物処理建屋	表 4. 4-8(1)	表 4. 4-8(2)	9	緊急時対策所	表 4. 4-9(1)	表 4. 4-9(2)	10	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 4-10(1)	表 4. 4-10(2)	11	第一ガスタービン発電機基礎	表 4. 4-11(1)	表 4. 4-11(2)	12	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	表 4. 4-12(1)	表 4. 4-12(2)	<p>表 4. 4 建物・構築物等と表番号との関連（基準地震動 S s）</p> <table border="1" data-bbox="1641 348 2353 768"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>建物・構築物等</th> <th>設計用床応答曲線</th> <th>床応答曲線*1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子炉建屋</td><td>表 4. 4-1(1)</td><td>表 4. 4-1(2)</td></tr> <tr><td>2</td><td>原子炉本体の基礎</td><td>表 4. 4-2(1)</td><td>表 4. 4-2(2)</td></tr> <tr><td>3</td><td>炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物</td><td>表 4. 4-3(1)</td><td>表 4. 4-3(2)</td></tr> <tr><td>4</td><td>タービン建屋</td><td>表 4. 4-4(1)</td><td>表 4. 4-4(2)</td></tr> <tr><td>5</td><td>軽油タンク基礎</td><td>表 4. 4-5(1)</td><td>表 4. 4-5(2)</td></tr> <tr><td>6</td><td>格納容器圧力逃がし装置基礎</td><td>表 4. 4-6(1)</td><td>表 4. 4-6(2)</td></tr> <tr><td>7</td><td>コントロール建屋</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>8</td><td>廃棄物処理建屋</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>9</td><td>緊急時対策所</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>10</td><td>第一ガスタービン発電機基礎</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> <tr><td>11</td><td>第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎</td><td>—*2</td><td>—*2</td></tr> </tbody> </table> <p>注記*1：基本ケースでの地震応答解析から得られた加速度応答時刻歴を入力として作成した応答スペクトルに対し、周期軸方向に±10%の拡幅を行ったもの</p> <p>*2：コントロール建屋、廃棄物処理建屋、緊急時対策所、第一ガスタービン発電機基礎、第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎の設計用床応答曲線、床応答曲線については、令和2年10月14日付け原規規発第2010147号にて認可された柏崎刈羽発電所第7号機の設計及び工事の計画のV-2-1-7「設計用床応答曲線の作成方針」のうち、「4.2 基準地震動 S s」による。</p> <p>4.3 余震荷重を算定するための地震動 津波荷重と重畳させる余震荷重を算定するための地震動及び震度は、<u>VI</u>-3「強度に関する説明書」のうち、<u>VI</u>-3-別添3-1「津波への配慮が必要な施設の強度に関する説明書」に示す。</p>	No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*1	1	原子炉建屋	表 4. 4-1(1)	表 4. 4-1(2)	2	原子炉本体の基礎	表 4. 4-2(1)	表 4. 4-2(2)	3	炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物	表 4. 4-3(1)	表 4. 4-3(2)	4	タービン建屋	表 4. 4-4(1)	表 4. 4-4(2)	5	軽油タンク基礎	表 4. 4-5(1)	表 4. 4-5(2)	6	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 4-6(1)	表 4. 4-6(2)	7	コントロール建屋	—*2	—*2	8	廃棄物処理建屋	—*2	—*2	9	緊急時対策所	—*2	—*2	10	第一ガスタービン発電機基礎	—*2	—*2	11	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	—*2	—*2	<p>図書構成の差異（燃料移送系配管ダクトは大物搬入建屋の建替えによる影響を受けて設計中であり、追而説明する。）</p> <p>図書構成の差異（KK6ではKK7で認可済みの建物・構築物及び屋外重要土木構築物の事項はKK7の記載を呼びこむ構成としており、新規申請・認可済みの順で建物・構築物及び屋外重要土木構築物を掲載することとしている。）</p>
No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*																																																																																																				
1	原子炉建屋	表 4. 4-1(1)	表 4. 4-1(2)																																																																																																				
2	原子炉本体の基礎	表 4. 4-2(1)	表 4. 4-2(2)																																																																																																				
3	炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物	表 4. 4-3(1)	表 4. 4-3(2)																																																																																																				
4	タービン建屋	表 4. 4-4(1)	表 4. 4-4(2)																																																																																																				
5	コントロール建屋	表 4. 4-5(1)	表 4. 4-5(2)																																																																																																				
6	軽油タンク基礎	表 4. 4-6(1)	表 4. 4-6(2)																																																																																																				
7	燃料移送系配管ダクト	表 4. 4-7(1)	表 4. 4-7(2)																																																																																																				
8	廃棄物処理建屋	表 4. 4-8(1)	表 4. 4-8(2)																																																																																																				
9	緊急時対策所	表 4. 4-9(1)	表 4. 4-9(2)																																																																																																				
10	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 4-10(1)	表 4. 4-10(2)																																																																																																				
11	第一ガスタービン発電機基礎	表 4. 4-11(1)	表 4. 4-11(2)																																																																																																				
12	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	表 4. 4-12(1)	表 4. 4-12(2)																																																																																																				
No.	建物・構築物等	設計用床応答曲線	床応答曲線*1																																																																																																				
1	原子炉建屋	表 4. 4-1(1)	表 4. 4-1(2)																																																																																																				
2	原子炉本体の基礎	表 4. 4-2(1)	表 4. 4-2(2)																																																																																																				
3	炉心, 原子炉圧力容器及び圧力容器内部構築物	表 4. 4-3(1)	表 4. 4-3(2)																																																																																																				
4	タービン建屋	表 4. 4-4(1)	表 4. 4-4(2)																																																																																																				
5	軽油タンク基礎	表 4. 4-5(1)	表 4. 4-5(2)																																																																																																				
6	格納容器圧力逃がし装置基礎	表 4. 4-6(1)	表 4. 4-6(2)																																																																																																				
7	コントロール建屋	—*2	—*2																																																																																																				
8	廃棄物処理建屋	—*2	—*2																																																																																																				
9	緊急時対策所	—*2	—*2																																																																																																				
10	第一ガスタービン発電機基礎	—*2	—*2																																																																																																				
11	第一ガスタービン発電機用燃料タンク基礎	—*2	—*2																																																																																																				

赤字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と柏崎刈羽原子力発電所第7号機との差異
 緑字：柏崎刈羽原子力発電所第6号機と島根原子力発電所2号機との差異
 黄色：前回提出時からの変更点